



『人権の花』贈呈式

6月30日、二里小学校で、令和8年度『人権の花』贈呈式が行われました。『人権の花』運動は、年間を通した花の植栽や管理を通じて、児童の思いやりや協力する心を育むことを目的に、唐津・伊万里人権啓発活動地域ネットワーク協議会が、伊万里市などの小学生を対象に実施しているもので、今年は二里小学校の児童が取り組みます。

この日は、児童たちが慣れない手つきながらも、贈られた花苗を一つ一つ大切に植えました。これから児童たちは、花を育てながら、思いやりや命を大切にする心を育んでいきます。



一つ一つ丁寧に花苗を植える児童たち

異性介護

母の希望で長男の私が介護を始めたものの、認知症と難聴のある90歳の母を約6年間介護する中で、異性介護ならではの戸惑いや難しさを感じる場面がありました。

特に気になったのは母の気持ちでした。

排泄や着替えの介助では、恥ずかしい思いをしているのではないかと気かけ、できるだけ尊厳を損なわないよう、声掛けや接し方に気を配りました。

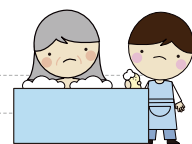
言葉が聞こえづらいため、目を見てゆっくり話し、表情や身振りを交えながら気持ちが伝わるように努め、また、安全に暮らせるよう住環境を整え、食事は高齢者向けの料理を参考にしながら栄養バランスを整えて調理しました。

介護を終えた今、振り返ると、もっと早く難聴に気づき補聴器を活用していれば、母との会話が増え、認知症の進行を少しでも遅らせることができたのではないかとはいえ残りもあります。

しかし、散歩や庭の草むしり、テレビを見ながら一緒に過ごした何気ない時間は、母にとっても私にとってもかけがえのない時間でした。

近年は、男性が介護を担う家庭も珍しくありません。介護は女性だけ、男性だけが担うものではなく、家族みんなで支えるものです。

異性介護には戸惑いや難しさもありますが、この経験をとおり、相手の気持ちに寄り添うことや、その人らしさと尊厳を大切にすることの重要性を学ぶことができました。



伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員

郷土の文化財

問合先 生涯学習課文化財係 (☎ 22-1262)

遺跡余話 古墳時代 伊万里湾の攻防 その3

先月号からの東山代町日尾にある夏崎古墳^{かちゅう}の甲冑^{かちゅう}についての続きです。江戸時代に見つかった甲冑は、なくなっていたと思われていましたが、江戸時代に山代郷の大庄屋を勤めていた多久島家（長浜）に代々家宝として伝えられていたことが、平成6年（1994年）に分かりました。

冑^{かぶと}の正式名称は『小札鋳留眉庇付冑^{こざねびょうどめまげしつきかぶと}』といい「小さな鉄板を鋳で留めた庇^{ひさし}の付いた冑」の意味です。冑の上部には二重の列で飾り鋳が巡って装飾性を高めています。『鋳留短甲^{びょうどめたんこう}』は胴体を守る鎧^{よろい}です。この当時には大量生産品の鎧もあるのですが、出土した短甲は特別に作られた特注品でした。

この甲冑は、大阪府堺市や羽曳野市にある世界遺産『百舌鳥・古市古墳群^{もずふるいち}』を中心とする畿内政権の鉄器製作集団が作ったと考えられていて、夏崎古墳の被葬者はこの政権と直接的な政治関係を結んでいたと考えられます。現在、甲冑は、市に寄贈され、資料館で展示しています。ぜひ、見に来てください。

小札鋳留眉庇付冑
(高さ 17.2cm)鋳留短甲 (背面)
(幅 46.5cm)